

学校教育総合プラン(第Ⅵ期)に関するパブリックコメントの実施結果について

ご意見をお寄せいただきありがとうございました。
お寄せいただきましたご意見に対する市の考え方をとりまとめましたので、ここに公表いたします。

1. 意見募集の期間 令和5年1月30日(月)～2月28日(火)

2. 意見の数 9件

3. 意見提出人数 2人(メール2人 / 個人2人)

4. 意見内容の概要

区分	件数
逗子・逗葉高校でのシチズンシップ教育について	1件
生徒の保護者に対する学びの機会の確保について	1件
表記及び内容について	7件
合計	9件

5. 市の対応区分

記号	対応区分	件数
○	意見を反映し、素案を修正するもの	7件
□	意見の趣旨や考え方が既に素案に盛り込まれているもの	0件
■	意見は反映させないが、今後の事業実施時等に参考とするもの	0件
▲	ご意見を反映することが困難なため、素案どおりとしたもの	0件
◆	今回のパブリックコメント対象外の内容であり、参考意見として扱うもの	2件
	合計	9件

6. 意見の内容と市の対応

意見概要	整理番号	意見内容	採否	意見数	採否の理由
逗子・逗葉高校でのシチズンシップ教育について	1	神奈川県では平成23年度から前県立高校でシチズンシップ教育を実施しているが、逗子／逗葉高校でのシチズンシップ教育の実施状況と今後の取り組みについても明らかにして下さい。	◆	1件	今回のパブリックコメント対象外の内容であり、参考意見とさせていただきます。
生徒の保護者に対する学びの機会の確保について	2	2020年から小学校での「プログラミング教育」と「主権者教育」が実施され、2021年からは中学校で「主権者教育」が実施され、2022年からは高等学校で「主権者教育」と「投資信託」授業が実施されるが、生徒だけではなく、生徒の保護者に対しても「お出かけ円卓フォーラム」を活用した学びの場を提供する必要があるものと考えます。	◆	1件	
表記及び内容について	3	Society5.0は、社会の姿(社会像)を表す語であって、時代の名前ではありません。経団連の報告書の一部で「society5.0時代」という語が使われていますが、「society5.0」を提唱した内閣府も、それを受けての文科省の文書も「society5.0時代」とは書いていません。	○	7件	いただいたご意見を踏まえ、修正・補足いたします。
	4	「言語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」 伝え合うだけで終わってはいは、言語活動とは言えないと思います。伝え合うことで「自分の考えや集団の考えを発展させる」ことができこそその言語活動です。	○		
	5	「健康な心と体づくり」という語はよく使われますが、「健康な心づくり」という語は一般にあまり見かけません。特別な意図がありますか。	○		
	6	「～教育課程の編成を行う中で、～を認識させる。」教育課程の編成と子どもへの指導は別物だと思います。	○		
	7	国教研の生徒指導リーフ『『中1ギャップ』の真実』に ◆「中1ギャップ」という語に明確な定義はなく、その前提となっている事実認識(いじめ・不登校の急増)も客観的事実とは言いきれない。 ◆「中1ギャップ」に限らず、便利な用語を安易に用いることで思考を停止し、根拠を確認しないままの議論を進めたり広めたりしてはならない。 とあるので、使用には注意が必要ではないか。	○		
	8	不登校対策の推進となっているが、問題行動やいじめの問題も解決されたわけではないので、項目名はそのⅤ期の項目を残す方がよい。	○		
	9	「遊び」を中心とした・・・ 幼稚園教育は「遊びを通しての指導を中心とする」のであって、遊びを中心としていると言い切ってしまうのは乱暴だし、「学び」もたくさんあります。	○		
合計				9件	